

# 近年の水災害の発生状況 名古屋市の水害リスク 等

---

国土交通省 中部地方整備局  
庄内川河川事務所  
令和4年7月25日

1. 東海豪雨について……………p.4
2. 平成23年 洪水について……………p.12
3. 近年の水災害……………p.21
4. 治水対策の現状……………p.36
5. 流域治水について……………p.42

# 庄内川流域の概要



庄内川の諸元  
 流域面積1,010km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長96km



凡例	
	鉄道 (JR線)
	鉄道 (JR線以外)
	自動車専用道路
	国道
	庄内川流域
	県境
	大臣管理区間
	基準地点
	主要地点

- ◆ 主な交通機関
- 高速道路 東名高速道、中央道、名古屋環状2号線
  - 国道 国道1号、国道19号
  - 鉄道 東海道新幹線、JR東海道本線、JR中央線
  - 空港 県営名古屋空港

# 庄内川の事業概要



①河道掘削(台船掘削)



②河道掘削(水中ブル)



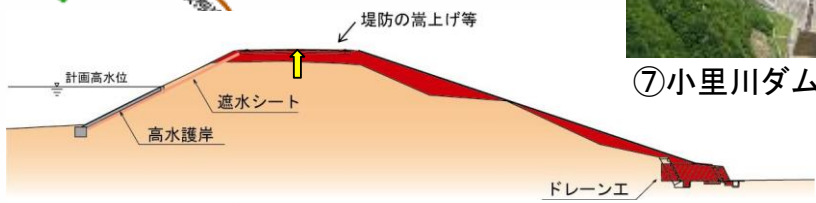
⑥多治見かわまちづくり



⑤特定構造物改築事業  
(枇杷島橋梁他2橋)



④高潮堤防整備



②③堤防整備



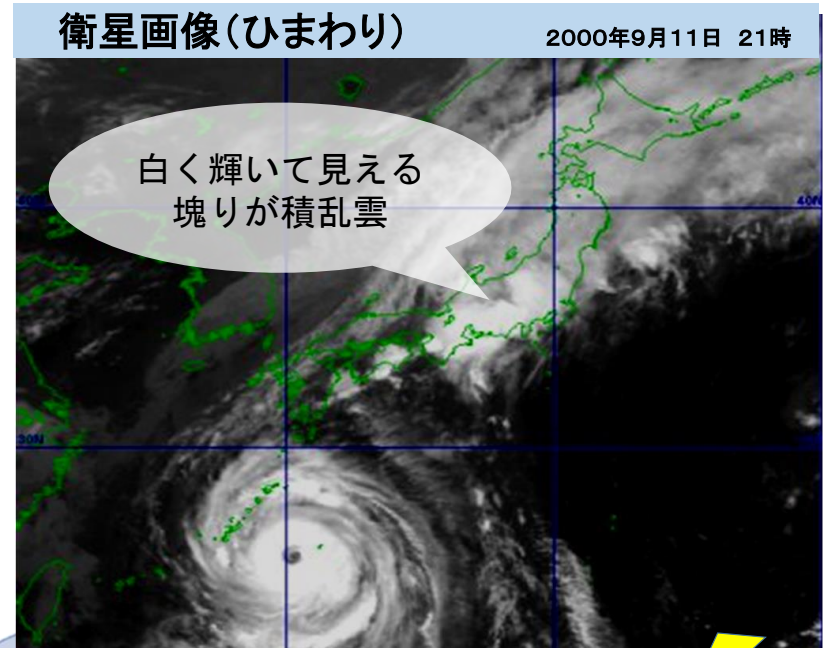
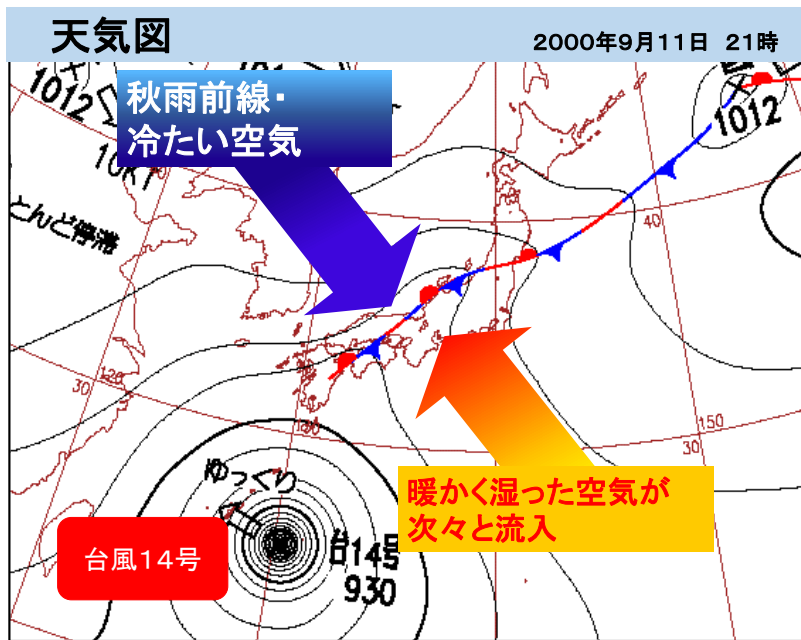
⑦小里川ダムの管理

1. 東海豪雨について
2. 平成23年 洪水について
3. 近年の水災害
4. 治水対策の現状
5. 流域治水について

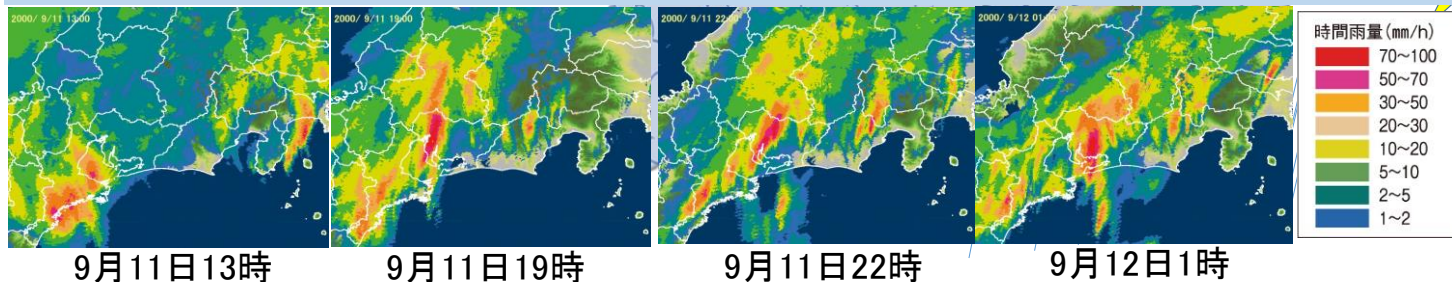


# 東海豪雨の気象情報①

- 秋雨前線に台風14号からの暖かく湿った空気が流れ込み、積乱雲が次々と発生。
- 三重県北中部から愛知県西部にかけて南北に連なる発達した雨雲(線状降水帯)がかかり、特に、17時頃から21時頃にかけて、1時間に80ミリを超える猛烈な雨が愛知県西部を中心に降った。



発達した雨雲(線状降水帯)により猛烈な雨が継続した







枇杷島地点で観測史上最大流量を記録。





# 新川の堤防が決壊





# 愛知県の被災状況

外水氾濫 (新川堤の堤防決壊、庄内川からの越水等)  
内水氾濫 (ポンプの機能不全、運転調整等)



浸水面積: 10,476ha  
被災家屋: 34,041棟







名古屋市西区八筋町



西枇杷島町



名鉄西枇杷島駅



名鉄須ヶ口駅



# 救助活動・支援活動



救助活動



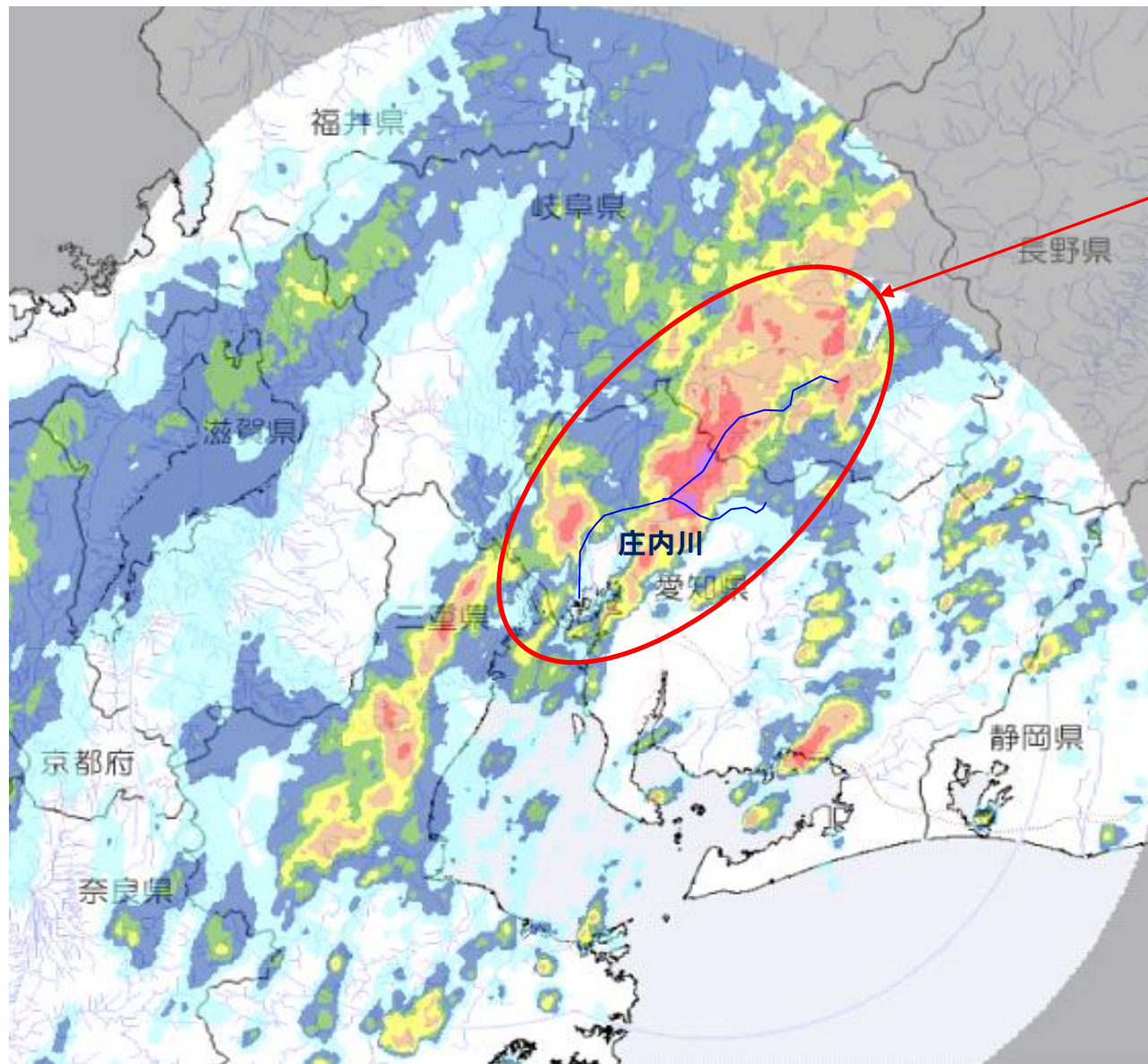
支援活動



災害ゴミ

1. 東海豪雨について
2. 平成23年 洪水について
3. 近年の水災害
4. 治水対策の現状
5. 流域治水について





庄内川流域の下流部から上流部まで降水強度の強い雨雲が線状に繋がるような形(ラインエコー)で停滞し、大雨に繋がった。

特に多治見市周辺では累積雨量400mm以上となった

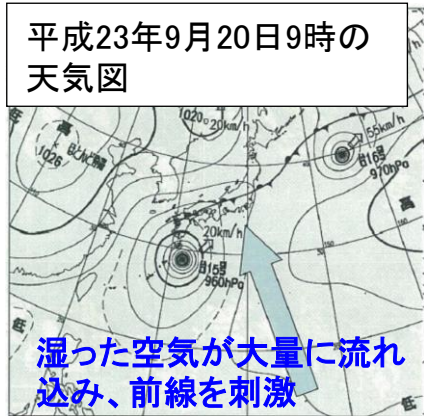
9月20日13:30時点

XバンドMPLレーダ雨量情報より

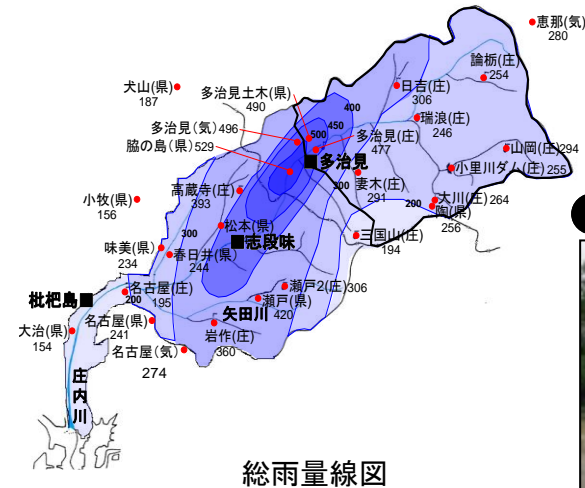
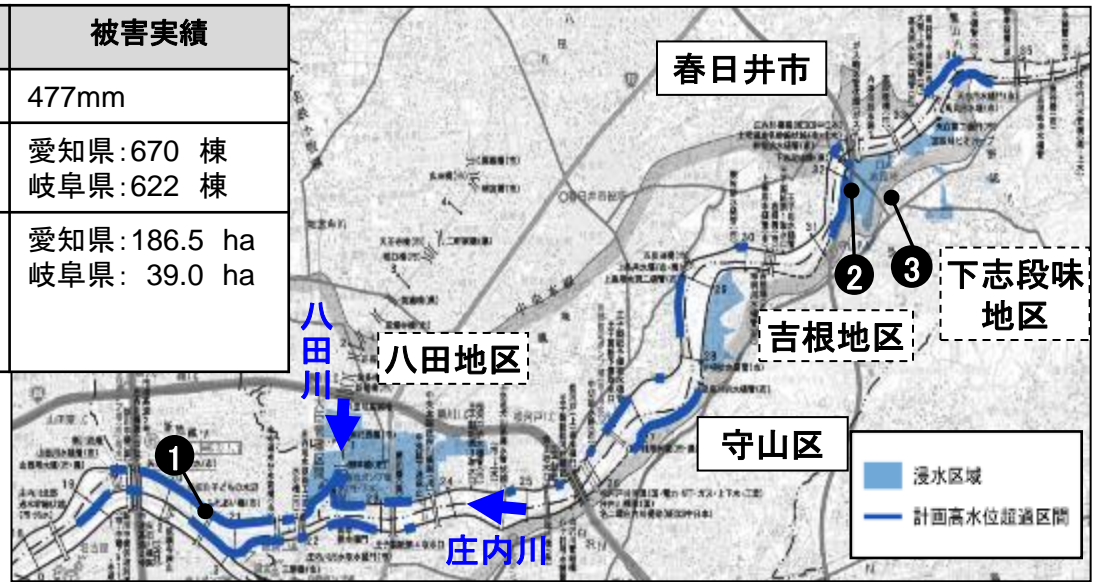


# 平成23年9月洪水（台風15号）

- 平成23年9月台風15号による出水では、台風からの暖かく湿った空気が大量に流れ込み、停滞する秋雨前線を刺激し、近年では最大の出水となった。
- 中流部では断続的に計画高水位を超過し、下志段味地区及び支川の八田川では越水はん濫による被害が発生し、吉根地区では内水氾濫が発生した。



被害実績	
総雨量	477mm
床上・床下浸水	愛知県:670 棟 岐阜県:622 棟
氾濫面積	愛知県:186.5 ha 岐阜県: 39.0 ha



① 水分橋上流



② 下志段味地区越水地点

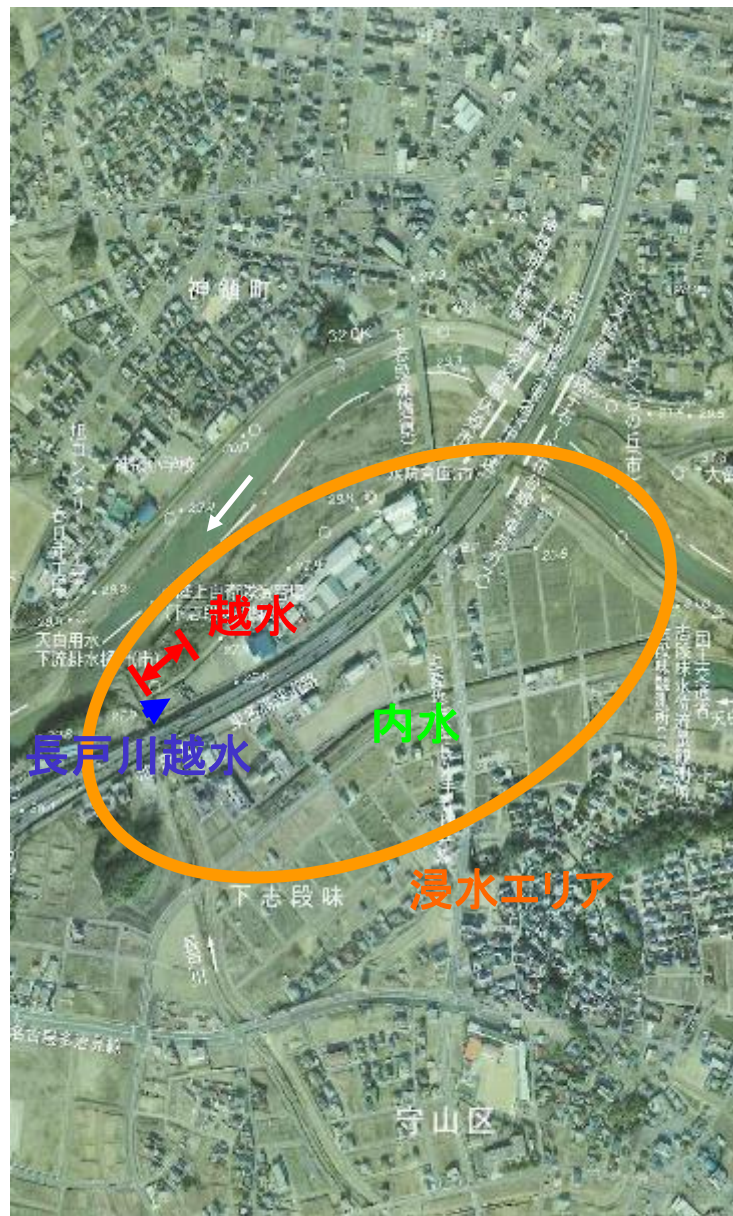


③ 志段味地区浸水状況





# 出水状況(志段味地区) 庄内川31.6k付近左岸



①堤防越水状況



②越水による堤防洗掘



③工場群の浸水状況



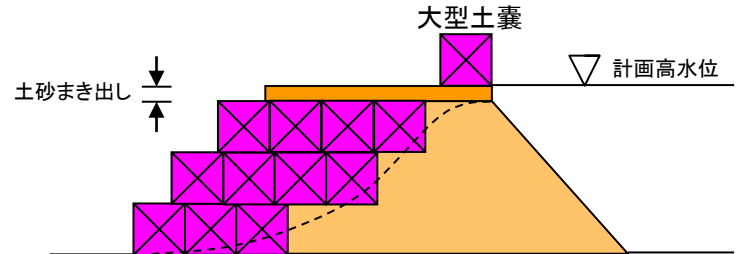
④宅地の浸水状況



# 緊急的な対応(志段味地区)

■ 1t土のう積み 約640個設置  
延長約480m

## 緊急的な対応イメージ図



**地元建設業協会の施工のもと  
徹夜で作業実施!**



**大型土のうの設置【9月21日12頃設置完了】**





# 出水状況(大留橋) 庄内川33.8k付近右岸



増水時の大留橋の状況

増水後の状況  
(平成25年に完全撤去)

## 洗堰の越水状況



庄内川



洗堰



# 出水状況(枇杷島) 庄内川14.4k付近右岸

## 県道枇杷島橋上流の状況





# 八田川 消防本部による活動状況



現場地図

1. 東海豪雨について
2. 平成23年 洪水について
- 3. 近年の水災害**
4. 治水対策の現状
5. 流域治水について

# 近年、毎年のように全国各地で自然災害が頻発

平成27  
〜  
29年

平成27年9月関東・東北豪雨



①鬼怒川の堤防決壊による浸水被害 (茨城県常総市)

平成28年熊本地震



②土砂災害の状況 (熊本県南阿蘇村)

平成28年8月台風10号



③小本川の氾濫による浸水被害 (岩手県岩泉町)

平成29年7月九州北部豪雨



④桂川における浸水被害 (福岡県朝倉市)

平成30年

7月豪雨



⑤小田川における浸水被害 (岡山県倉敷市)

台風第21号



⑥神戸港六甲アイランドにおける浸水被害 (兵庫県神戸市)

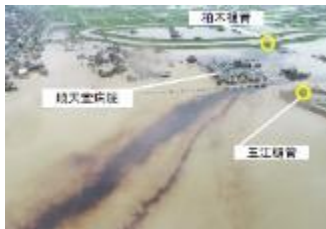
北海道胆振東部地震



⑦土砂災害の状況 (北海道勇払郡厚真町)

令和元年

8月前線に伴う大雨



⑧六角川周辺における浸水被害状況 (佐賀県大町町)

房総半島台風



⑨電柱・倒木倒壊の状況 (千葉県鴨川市)

東日本台風



⑩千曲川における浸水被害状況 (長野県長野市)



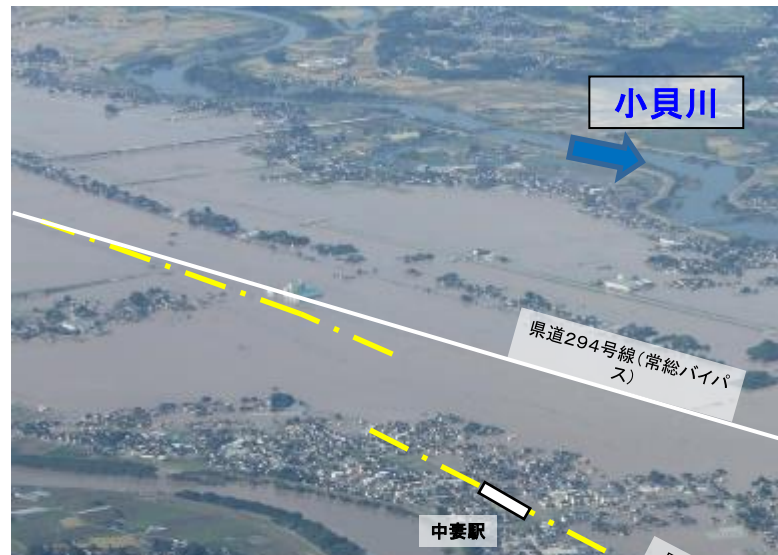
令和2年7月豪雨

令和2年



⑪球磨川における浸水被害状況 (熊本県人吉市)





小貝川

県道294号線(常総バイパス)

中養駅

関東鉄道常総線

大生小学校

水海道さくら病院

北水海道駅

水海道中学校

水海道第二高等学校

鬼怒川

(八間堀川排水機場)

常総市役所



(ヘリ撮影日:11日15時頃)

屋根からヘリコプターで救助される人  
毎日新聞社



常総市役所から駐車場を撮影(撮影日:9/11)  
周辺は浸水し、防災拠点の市役所も孤立化。

(茨城県災害対策本部 10月22日16時以前の発表資料より常総市等、関連を抜粋)



自衛隊員にボートで救出された人たち  
毎日新聞社

## 鬼怒川の堤防が決壊、常総市で全半壊の家屋が5,000戸以上



河川のはん濫、大量の土砂や流木の流出等により、死者237名、家屋の全半壊等18,010戸、家屋浸水28,469戸の甚大な被害が全国で発生（消防庁情報：1月9日16:00現在）



# 平成30年7月豪雨(倉敷市真備町)



7月8日(日)撮影 左岸3k400付近堤内地



7月8日(日)撮影 左岸6k400付近堤内地



7月7日(土)撮影 左岸1k200付近堤内地  
(末政川付近)



7月7日(土)撮影 左岸1k000付近堤内地  
(まび記念病院周辺)



- 令和元年台風第19号(東日本台風)により広い範囲で記録的な大雨となり、関東・東北地方を中心に合計142箇所では堤防が決壊するなど、河川が氾濫し、国管理河川だけでも約25,000haが浸水



信濃川水系千曲川(長野県長野市)



上田電鉄別所線(千曲川橋梁)



住宅等浸水状況(長野県長野市)



- 台風第19号により信濃川水系千曲川が長野市増穂地先で決壊。浸水区域内にある北陸新幹線の車両基地にあった新幹線線の車両10編成(1編成12両)が浸水したため、北陸新幹線はダイヤは長期間に渡り影響が出た。
- また、全国の新幹線車両基地など28カ所のうち、16カ所が浸水想定区域内に位置している。



浸水推定段彩図(国土地理院)に加筆

## 球磨川 右岸側 人吉市街部(紺屋町)



令和2年7月4日(土)朝撮影

## 球磨川 西瀬橋 流失(人吉市矢黒町)



令和2年7月4日(土)朝撮影



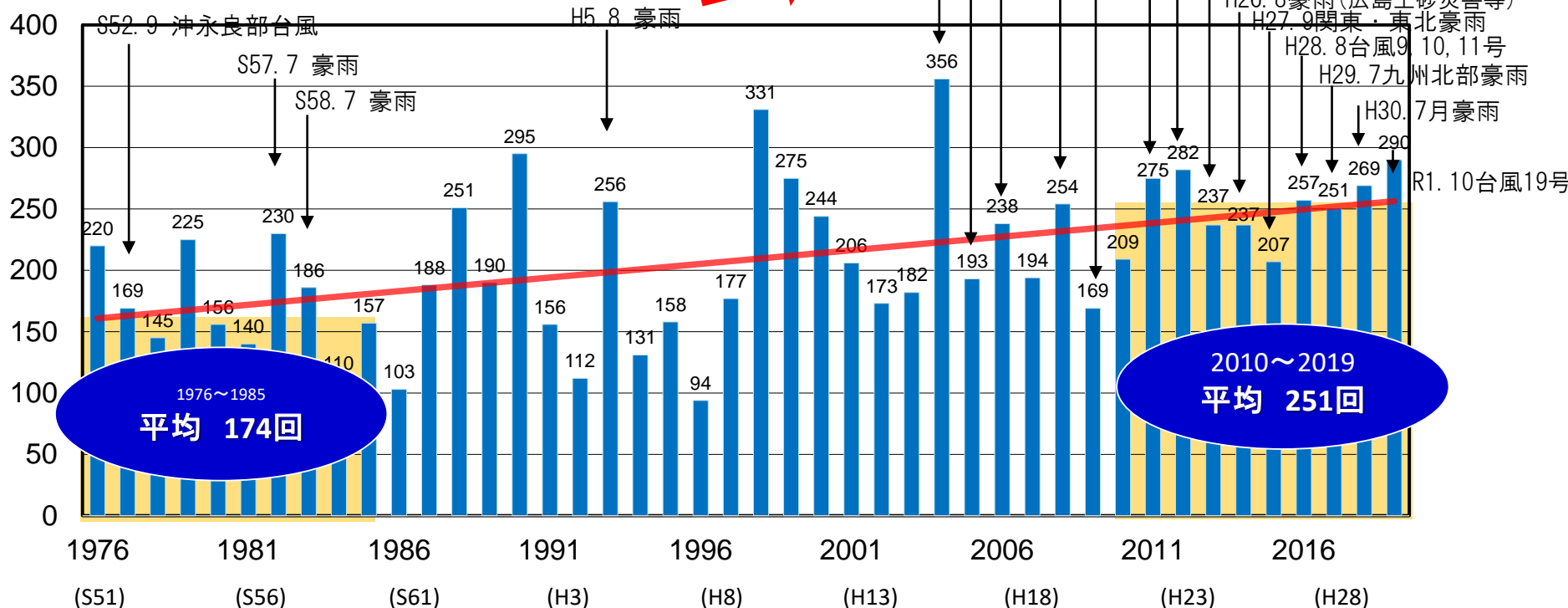
# 近年、雨の降り方が変化

- 時間雨量50mmを超える短時間強雨の発生件数が増加。
- 気候変動の影響により、水害の更なる頻発・激甚化が懸念。

H16. 7新潟・福島豪雨、福井豪雨、H16. 10台風23号

(回/年)

約1.4倍



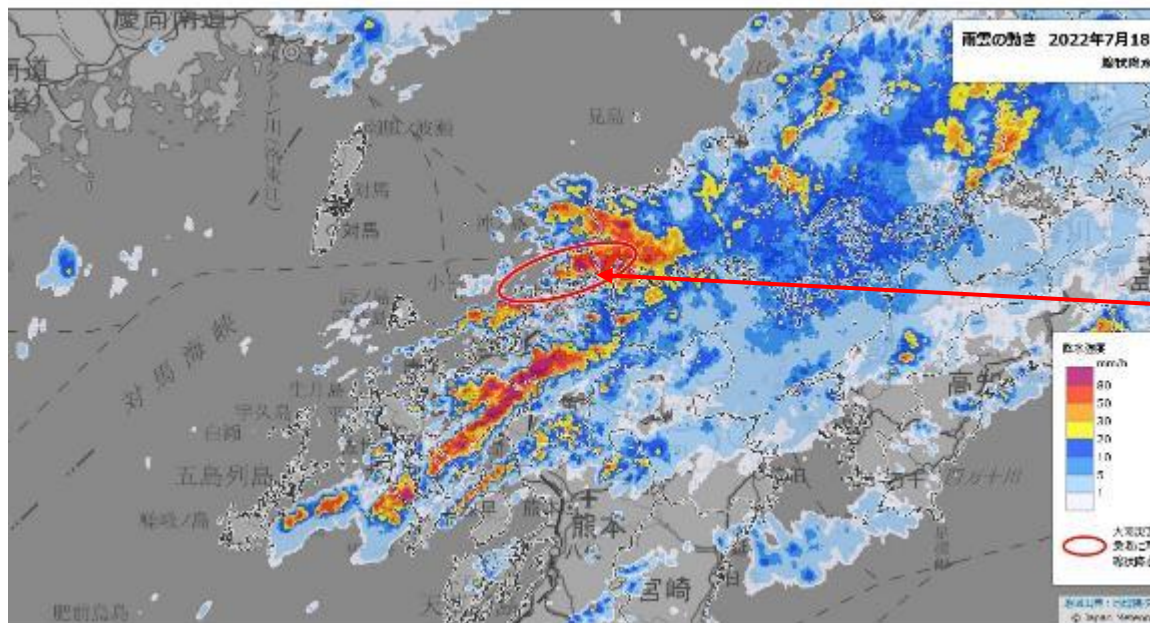
1976~1985  
平均 174回

2010~2019  
平均 251回

1時間降水量50mm以上の年間発生回数(アメダス1,000地点あたり)

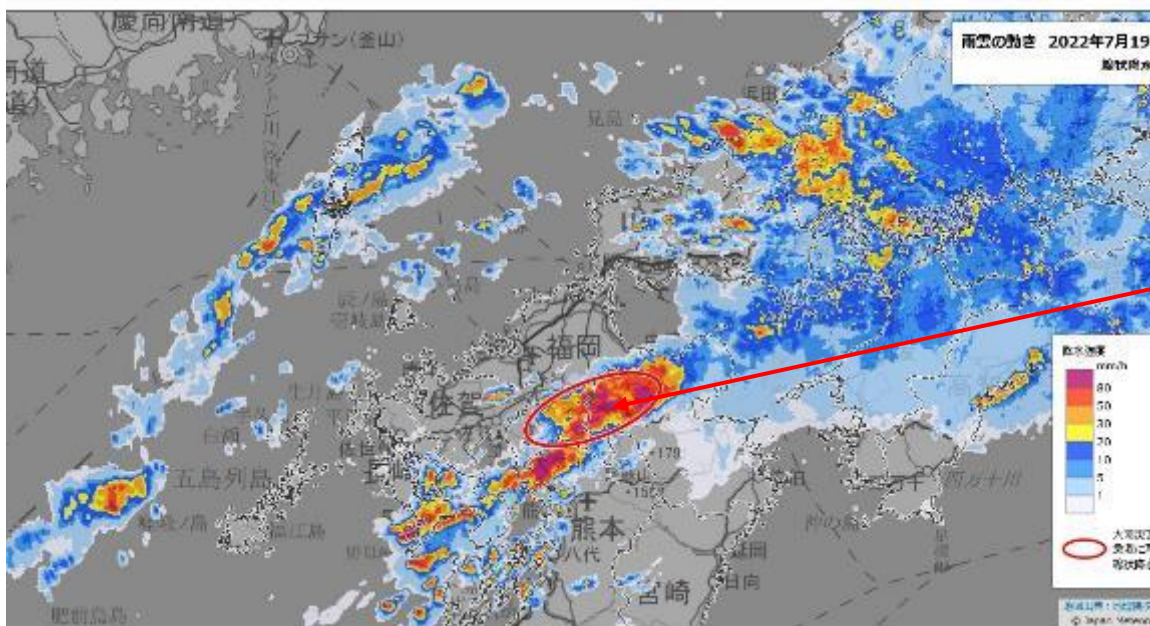
※気象庁資料より作成  
(気象庁が命名した気象現象等を追記)

# 大雨災害をもたらす線状降水帯の発生



2022年7月18日  
23時頃の線状降水帯

1時間降水量(下関)  
35.5 mm



2022年7月19日  
4時頃の線状降水帯

1時間降水量(日田)  
61.0 mm



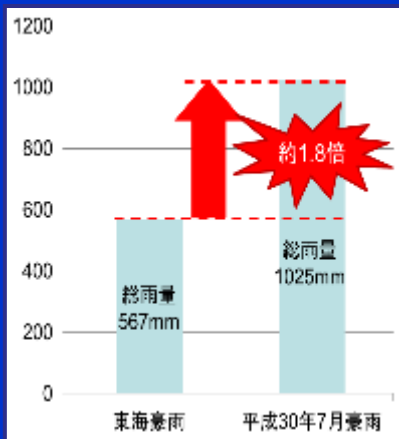
# 東海豪雨を上回る規模の洪水が頻発



小田川堤防決壊(岡山県倉敷市)  
(写真提供: 中部地方整備局)

## <平成30年7月豪雨>

- ・6月28日～7月8日 西日本を中心に広い範囲で大雨
- ・総雨量: **1,025mm**  
(高知県安芸郡馬路村)
- ・死者224名、行方不明者8名
- ・床上浸水 6,758棟  
床下浸水 21,913棟



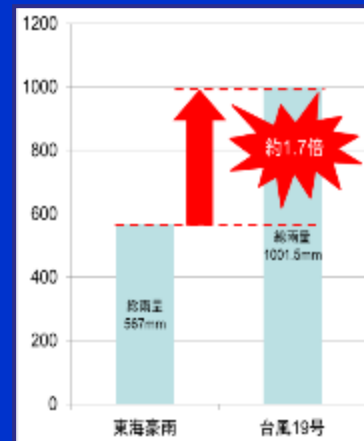
気象庁 災害をもたらした気象事例(平成元年～本年)、消防庁

(長野県長野市)

毎日新聞「台風19号、各地で河川決壊 自然の猛威、容赦なく」  
<https://mainichi.jp/graphs/20191013/hpj/00m/040/001000g/1>

## <令和元年 台風19号>

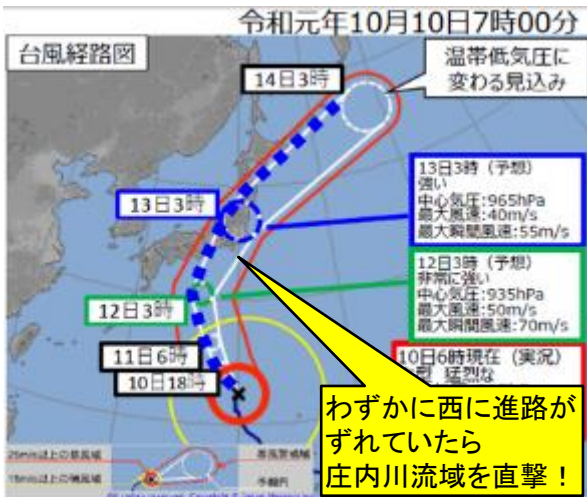
- ・10月11日～10月14日 東日本を中心に広い範囲で大雨
- ・総雨量: **1001.5mm**  
(埼玉県箱根)
- ・死者99名、行方不明者3名
- ・床上浸水 7,776棟  
床下浸水 22,592棟



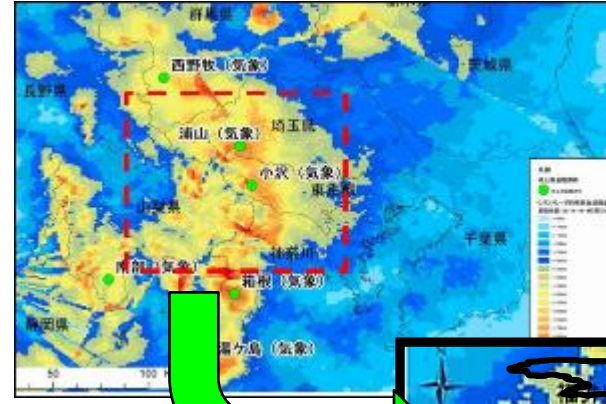
※上記数値には10月25日からの大雨による被害状況を含む

消防庁 令和元年10月12日 令和元年台風第19号及び前線による大雨による被害及び消防機関等の対応状況(第64報 R2.1.10更新)

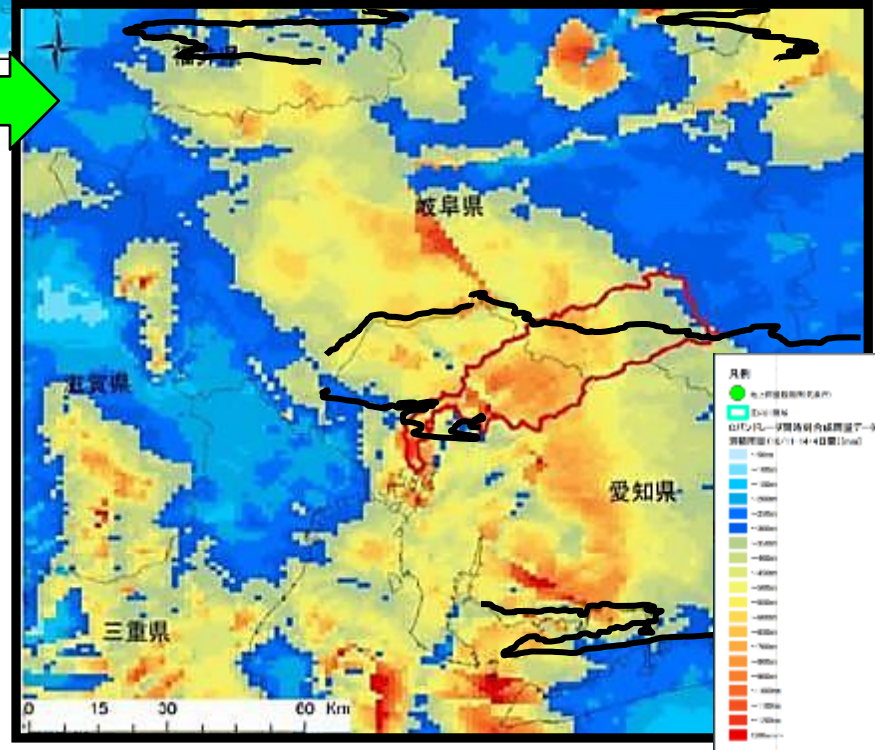
## ■台風19号進路予想図(気象庁)



## ■レーダ雨量(国土交通省) (R1.10.11 0時~10.15 0時)



## ■台風19号の大雨が庄内川流域で降った場合(□は庄内川流域)



## ■枇杷島地点(清須市西枇杷島地先)上流域を直撃した場合

24時間*累計雨量	
東海豪雨	353mm
令和元年東日本台風が庄内川流域を直撃した場合	511mm
想定最大(L2)規模	578mm

約1.4倍

ほぼ同等

\* 庄内川の洪水に影響を与える降雨の時間

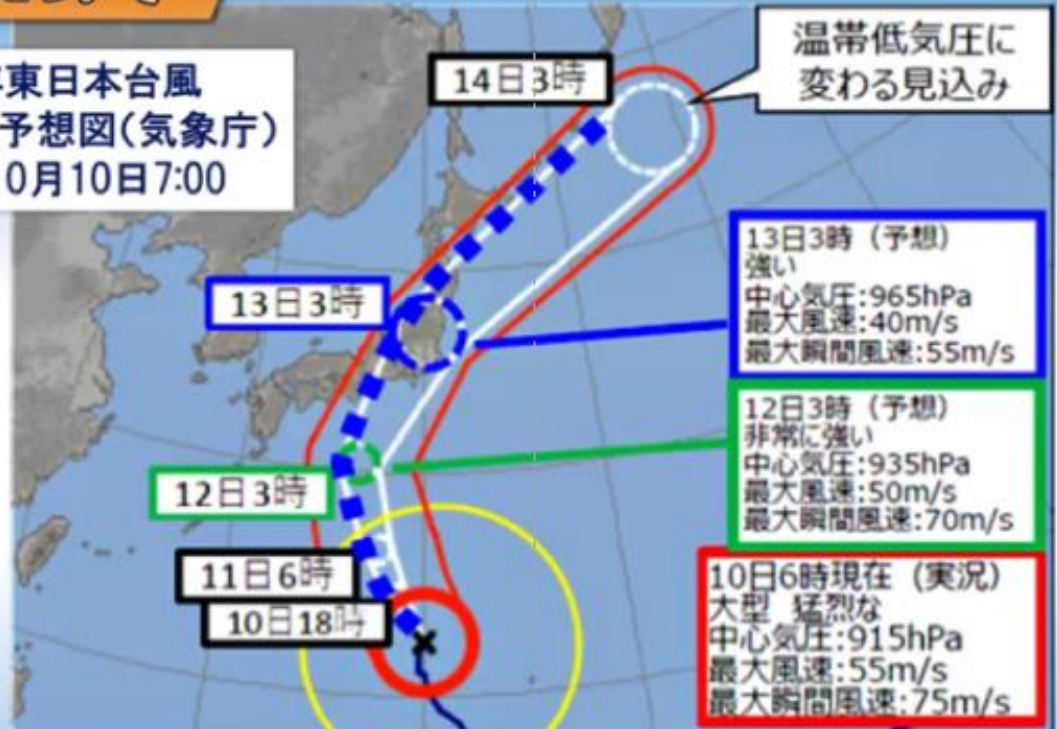


動画

近年の豪雨災害について



令和元年東日本台風  
2日前の進路予想図(気象庁)  
令和元年10月10日7:00



「令和元年東日本台風」については

浸水想定区域図(想定最大規模)では・・・

- ・決壊箇所から平野部に広がるように氾濫し、鉄道駅(JR駅)等が浸水する等、ライフラインに大きな影響が生じる。
- ・名古屋駅は約3m浸水し、駅へのアクセスや駅からの移動が困難。
- ・1階部分が浸水する公共施設が存在する。

## 被害諸量(堤防決壊) (想定最大規模)

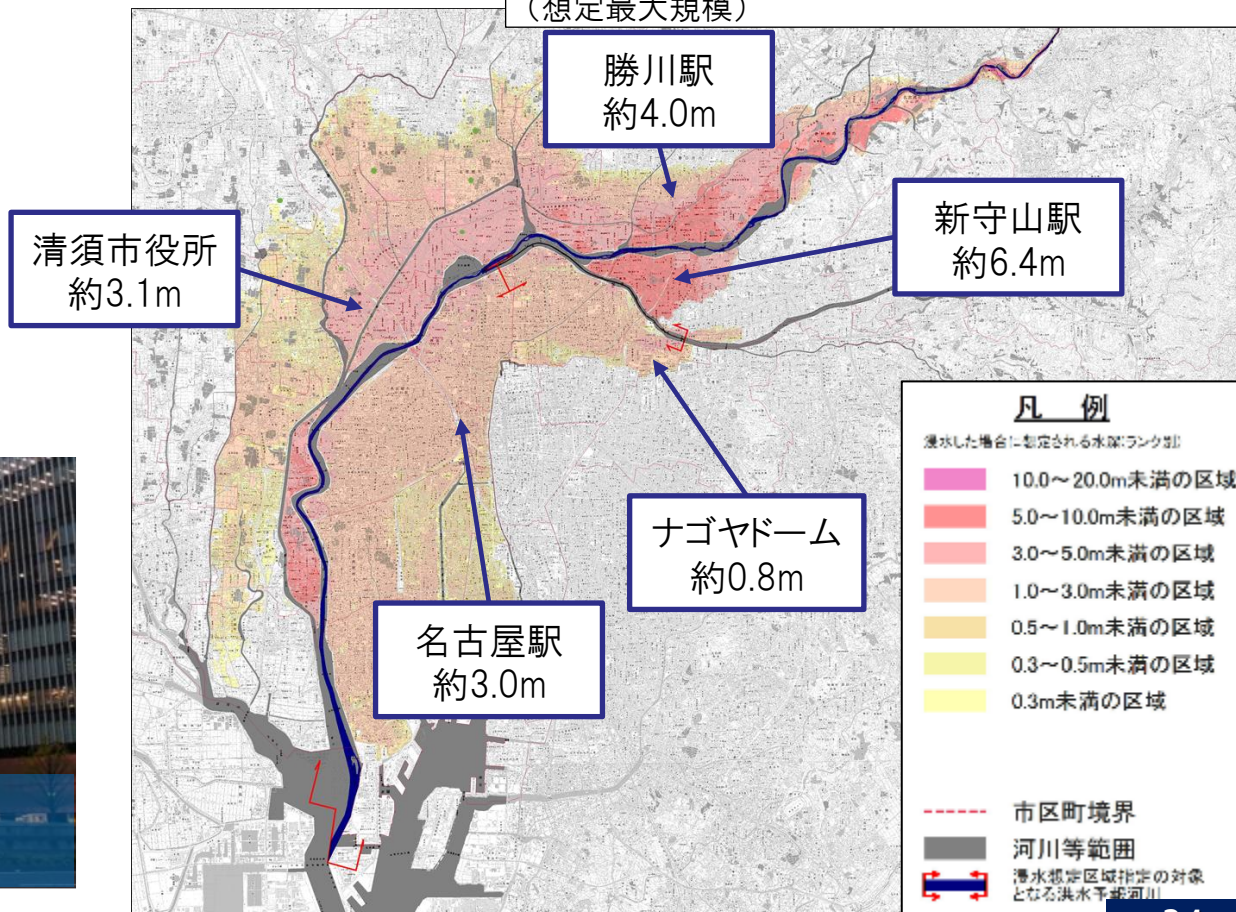
浸水面積	約1.6万ha
被害人口	約112万人
被害額	約21兆円
浸水家屋数	床上 約44万戸 床下 約4万戸

※愛知県内全域



※名古屋駅前の浸水イメージ

庄内川水系庄内川・矢田川 洪水浸水想定区域図  
(想定最大規模)





近年全国各地で発生している豪雨は、庄内川流域でも発生する可能性があることを知り、東海豪雨の教訓を風化させることなく、新たな水害に備え、命を次世代につないでいくためには、「自らの命は自らで守る」ことを認識した行動が重要であることを伝えるために本動画を作成しました。



YouTube



庄内川河川事務所HP



東海豪雨から20年～あなたの命を守るメッセージ～

(ご挨拶) 「河川管理者から地域の皆様へ」

- ・中部地方整備局長 堀田治
- ・愛知県知事 大村秀章



東海豪雨から20年～あなたの命を守るメッセージ～

(第1部) 「東海豪雨を振り返る」

- ・清須市長 永田純夫



東海豪雨から20年～あなたの命を守るメッセージ～

(第2部)

「東海豪雨以降の防災対策と近年の豪雨災害」

- ・名古屋地方気象台長 東田進也
- ・庄内川河川事務所長 西田将人



東海豪雨から20年～あなたの命を守るメッセージ～

(第3部)

「庄内川流域市町首長からのメッセージ」

- ・庄内川流域10市町 首長
- 「これからの水防災に向けて」
- ・庄内川河川事務所長 西田将人

1. 東海豪雨について
2. 平成23年 洪水について
3. 近年の水災害
- 4. 治水対策の現状**
5. 流域治水について





# 河川激甚災害対策特別緊急事業(庄内川)

## 築堤・堤防強化 : 13.6km



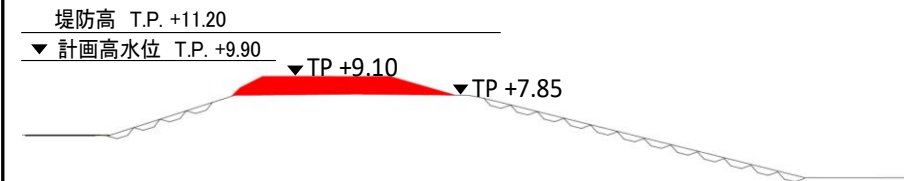
## 河道掘削 : 約140万m<sup>3</sup>



## 小田井遊水地の改築 (越流堤約1.3m嵩上げ)

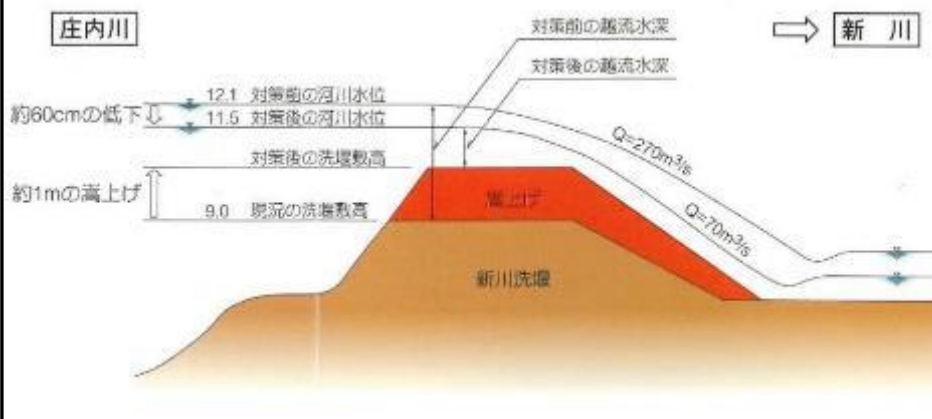
東海豪雨のピーク流量を約140m<sup>3</sup>/s低減し、遊水池の効果を向上。

枇杷島地点における水位低下効果は約16cm。



## 洗堰の嵩上げ (約1m)

東海豪雨時の洗堰からの最大越流量を270m<sup>3</sup>/sから70m<sup>3</sup>/sに低減。





# 激特事業による効果

東海豪雨と同様の降雨に対して床上浸水は約9割減、軒下以上の浸水は解消。

## 東海豪雨時の浸水状況



床上浸水： 約11,900戸  
 (うち軒下以上浸水：約 1,400戸)

## 激特事業後の浸水状況 (推定)



床上浸水： 約 1,100戸  
 (うち軒下以上浸水：約 0戸)

# 一色大橋架け替え(平成23年完成)

**事業内容:** 一色大橋は昭和9年に築造され、河川管理施設等構造令に不適合（桁下高・径間長不足）。下流流下能力のネック地点であるため、激特事業と一体的かつ緊急的に橋梁を改築。

**事業年度:** 平成12年度～平成23年度



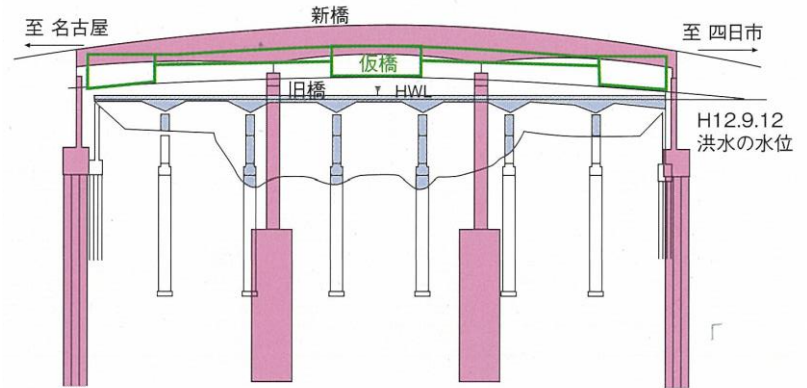
平成18年の状況



一色大橋



平成23年の状況



桁の高さ (旧橋4.0m→仮橋5.2m→新橋6.8m)





# 庄内川の河川整備の計画

## 平成20年3月 庄内川水系河川整備計画 策定

- ・洪水に対する安心・安全の確保
- ・魚、鳥、植物などの河川環境の保全・再生
- ・河川空間の利用促進
- ・流域全体の水循環系の保全

### 治水に関する目標

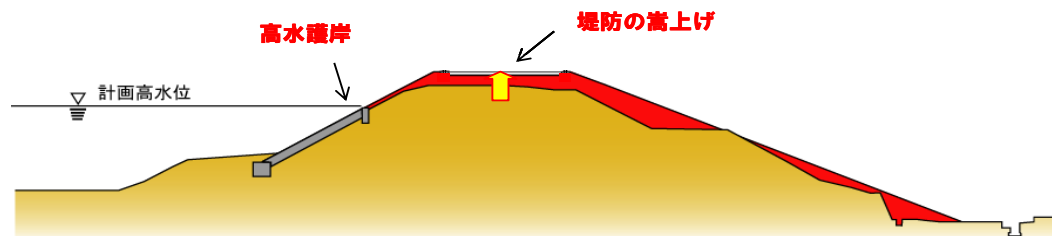
愛知県区間：観測史上最大の東海豪雨と同規模の洪水が発生しても破堤等による甚大な被害を防止する

岐阜県区間：観測史上最大の平成元年9月と同規模の洪水が発生しても破堤等による甚大な被害を防止する

浚渫状況



堤防整備のイメージ



1. 東海豪雨について
2. 平成23年 洪水について
3. 近年の水災害
4. 治水対策の現状
5. 流域治水について



近年の水害の激甚化・頻発化に対応するため、「流域治水」を進めております。

この取り組みの推進には、企業・地域住民  
の協力は不可欠です。

# 気候変動を踏まえた総合的かつ多層的な災害対策 国土交通省

気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について  
～あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換～ 答申 の概要

○ 近年の水災害による甚大な被害を受けて、施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を一步進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う、流域治水への転換を推進し、**防災・減災が主流となる社会を目指す。**

## これまでの対策

施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える、水防災意識社会の再構築  
洪水防御の効果の高いハード対策と命を守るための避難対策とのソフト対策の組合せ

変  
化

### 気候変動の影響

今後も水災害が激化。これまでの水災害対策では安全度の早期向上に限界があるため、整備の加速と、対策手法の充実が必要。

### 社会の動向

人口減少や少子高齢化が進む中、「コンパクト+ネットワーク」を基本とした国土形成により地域の活力を維持するためにも、水災害に強い安全・安心なまちづくりが必要。

### 技術革新

5GやAI技術やビッグデータの活用、情報通信技術の進展は著しく、これらの技術を避難行動の支援や防災施策にも活用していくことが必要。

対策の  
重要な  
観点

### 強靱性

甚大な被害を回避し、早期復旧・復興まで見据えて、事前に備える

### 包摂性

あらゆる主体が協力して対策に取り組む

### 持続可能性

将来にわたり、継続的に対策に取り組む、社会や経済を発展させる

これからの  
対策

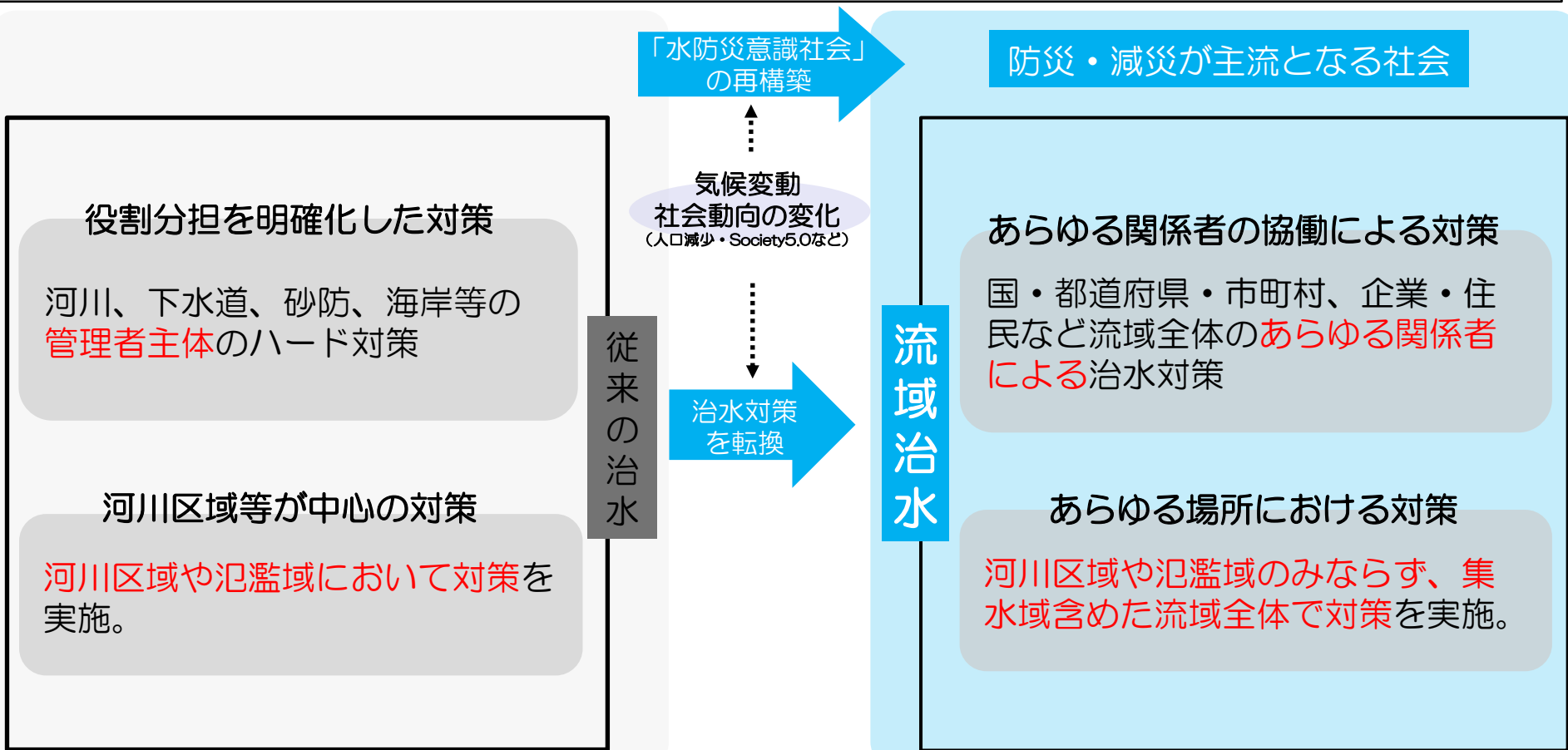
気候変動を踏まえた、**計画の見直し**

河川の流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う持続可能な治水対策  
**「流域治水」への転換**



# 「流域治水」への転換

- 近年の水災害による甚大な被害を受け、施設能力を超過する洪水が発生するものへと意識を改革し、氾濫に備える、「水防災意識社会」の再構築を進めてきた
- 今後、この取組をさらに一歩進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で対応する「流域治水」へ転換



出典：社会資本整備審議会 河川分科会「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について 答申概要資料より

# 流域治水プロジェクト

気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について

～あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換～ 答申 の概要

- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。

## ① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

**雨水貯留機能の拡大** 集水域  
 [国・市・企業・住民]  
 雨水貯留浸透施設の整備、  
 ため池等の治水利用

## 流水の貯留

河川区域  
 [国・県・市・利水者]  
 治水ダム建設・再生、  
 利水ダム等において貯留水を  
 事前に放流し洪水調節に活用

[国・県・市]  
 土地利用と一体となった遊水  
 機能の向上

## 持続可能な河道の流下能力の維持・向上

[国・県・市]  
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、  
 雨水排水施設等の整備

## 氾濫水を減らす

[国・県]  
 「粘り強い堤防」を目指した  
 堤防強化等

## ② 被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導/  
 住まい方の工夫  
 [国・市・企業・住民]  
 土地利用規制、誘導、移転促進、  
 不動産取引時の水害リスク情報提供、  
 金融による誘導の検討

氾濫域  
 浸水範囲を減らす  
 [国・県・市]  
 二線堤の整備、  
 自然堤防の保全



## ③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実 氾濫域  
 [国・県]  
 水害リスク情報の空白地帯解消、  
 多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する  
 [国・県・市]

長期予測の技術開発、  
 リアルタイム浸水・決壊把握

## 経済被害の最小化

[企業・住民]  
 工場や建築物の浸水対策、  
 BCPの策定

## 住まい方の工夫

[企業・住民]  
 不動産取引時の水害リスク情報  
 提供、金融商品を通じた浸水対  
 策の促進

## 被災自治体の支援体制充実

[国・企業]  
 官民連携によるTEC-FORCEの  
 体制強化

## 氾濫水を早く排除する

[国・県・市等]  
 排水門等の整備、排水強化

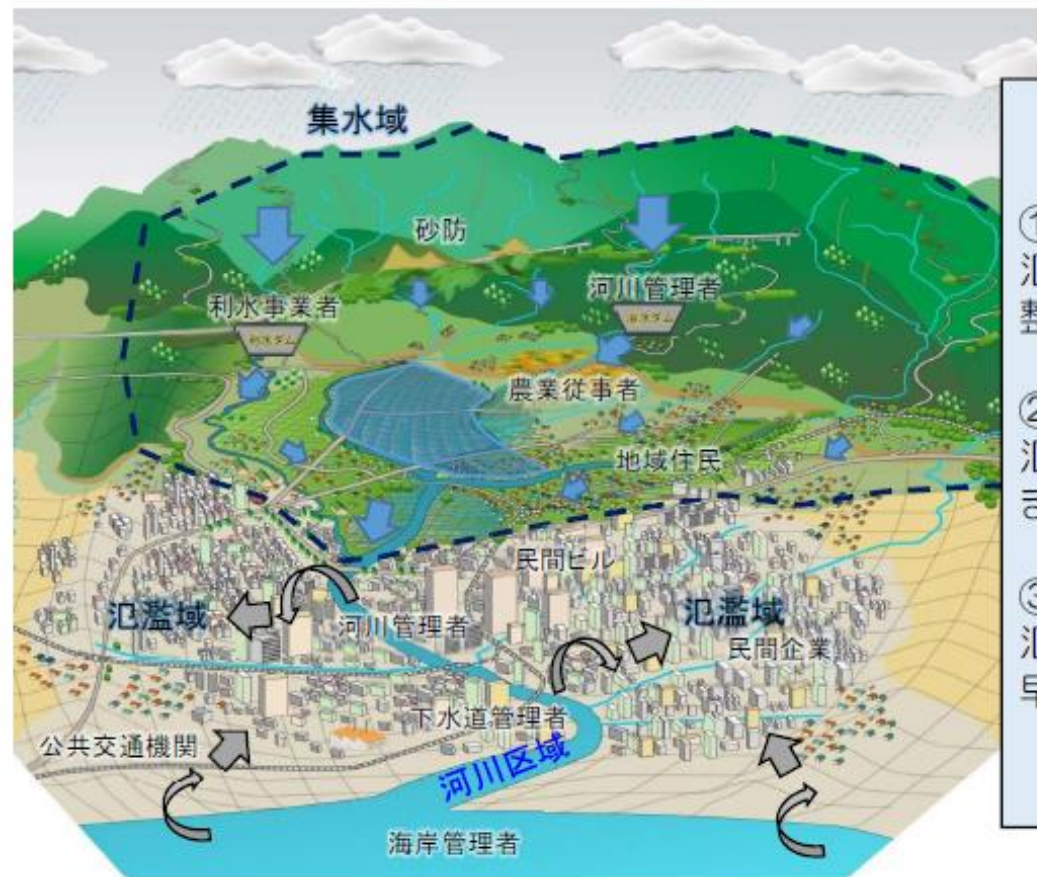


# 「流域治水」の考え方

気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について

～あらゆる関係者が流域全体で行う持続可能な「流域治水」への転換～ 答申 の概要

○ 河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う治水対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その流域の関係者全員が協働して、①氾濫をできるだけ防ぐ対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策、を総合的かつ多層的に取り組む。



- ①【氾濫をできるだけ防ぐための対策】  
氾濫を防ぐ堤防等の治水施設や流域の貯留施設等整備
- ②【被害対象を減少させるための対策】  
氾濫した場合を想定して、被害を回避するためのまちづくりや住まい方の工夫等
- ③【被害の軽減・早期復旧・復興のための対策】  
氾濫の発生に際し、確実な避難や経済被害軽減、早期の復旧・復興のための対策







# 庄内川流域における流域治水②

流域治水は3つの柱で構成されています。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(赤色)

② 被害対象を減少させるための対策(橙色)

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策(緑色)

「要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性の確保」や「分かりやすい教材等を用いた防災教育」、「ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み」は、③に該当します。

庄内川流域の特徴を踏まえ、狭窄部対策(橋梁改築)等の対策に加え、水害リスクの低い地域への居住誘導の推進、公園等を活用した高台の整備、地下空間・地区タイムラインの作成・周知等をあらゆる関係者と一丸となって実施します。

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

対策内容	対策内容	短期	中期	中長期
堤防整備、河道規制、橋梁改築、取水施設整備	(大庄内地区) (圏域区画) (単用河川・普通河川整備)	大庄内地区の堤防整備(2025年度)	大庄内地区の河道規制(2025年度)	大庄内地区の橋梁改築(2025年度)
川筋水道の整備		川筋水道の整備(2025年度)	川筋水道の整備(2025年度)	川筋水道の整備(2025年度)
排水機器等の新設・増設・長寿命化対策		排水機器等の新設・増設・長寿命化対策(2025年度)	排水機器等の新設・増設・長寿命化対策(2025年度)	排水機器等の新設・増設・長寿命化対策(2025年度)
定止河川対策	既設ダム・ダムにおける事前浸透等の実施・体制構築 野田川等の整備 民間民営による貯留施設設置指導 急激な増水における雨水貯留浸透施設整備への支援 ため池等の活用 水田の野田川流域向上 運水性舗装の整備 森林保全	既設ダム・ダムにおける事前浸透等の実施・体制構築(2025年度)	野田川等の整備(2025年度)	民間民営による貯留施設設置指導(2025年度)
土砂災害対策	砂防施設の新設 治山施設の整備	砂防施設の新設(2025年度)	治山施設の整備(2025年度)	砂防施設の新設(2025年度)
内水被害軽減対策	雨水排水源の新設・増設 ポンプ場の新設・増設・機器強化 越水防止ポンプ運転制御システムへの検討	雨水排水源の新設・増設(2025年度)	ポンプ場の新設・増設・機器強化(2025年度)	越水防止ポンプ運転制御システムへの検討(2025年度)

## 被害対象を減少させるための対策

対策内容	対策内容	短期	中期	中長期
避難・誘導する自然災害に対応した「安全なまぶらづくり」に向けた取組	避難誘導計画への防災計画の位置付け 水害リスクの低い地域への居住誘導	避難・誘導する自然災害に対応した「安全なまぶらづくり」に向けた取組(2025年度)	避難誘導計画への防災計画の位置付け(2025年度)	水害リスクの低い地域への居住誘導(2025年度)
治水ハザードエリアにおける各家屋等への浸水防止対策	浸水防止対策の支援 出水開始に希望する市民への土のうの事前配布	治水ハザードエリアにおける各家屋等への浸水防止対策(2025年度)	浸水防止対策の支援(2025年度)	出水開始に希望する市民への土のうの事前配布(2025年度)

## 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

対策内容	対策内容	短期	中期	中長期
早期復旧に備えた対策	防災拠点の整備 緊急河川搬出等の整備 大規模災害被害の軽減に向けた道路避難の一時利用 公園等を活用した高台の整備 広域避難計画の策定 地下空間・地区タイムラインの作成・周知	防災拠点の整備(2025年度)	緊急河川搬出等の整備(2025年度)	大規模災害被害の軽減に向けた道路避難の一時利用(2025年度)
被害軽減対策	水位調節下水道の指定・運用 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 関係機関との連携強化 ハザードマップの更新 水害リスク明白化の推進 土砂災害警戒区域等の指定・周知	水位調節下水道の指定・運用(2025年度)	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保(2025年度)	関係機関との連携強化(2025年度)
住民の主体的な避難行動を促す取組	避難場所や経路等に關する情報の周知 分かりやすい教材等を用いた防災教育 ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組	避難場所や経路等に關する情報の周知(2025年度)	分かりやすい教材等を用いた防災教育(2025年度)	ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組(2025年度)
ソフト対策のための整備	監視型雨量計・監視カメラの設置・増設	監視型雨量計・監視カメラの設置・増設(2025年度)	監視型雨量計・監視カメラの設置・増設(2025年度)	監視型雨量計・監視カメラの設置・増設(2025年度)

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

■ : 対策実施に向けた調査・検討期間